

教科(科目)	地理B	単位数(時数)	3単位(111)	学年(科)	3学年(情報科学科)
使用教科書	・帝国書院『新詳地理B』 ・帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	・第一学習社『最新地理図表GEO』・二宮書店『データブック・オブ・ザ・ワールド』 ・山川出版社『改訂版 地理用語集』				

1. 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 指導の重点

- ①授業に集中すること。「どこで」「なぜ」という問題意識を常にもちながら、授業を受ける。こうした姿勢が、地理的な思考能力の向上につながる。
- ②知識を定着させる重要な手段が、週末課題と小テストである。この2つに真剣に取り組み、短いスパンで確実な知識定着を目指す。

3. 評価規準と評価方法

《評価の観点》

- ・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究しようとする姿勢が見られる。(関心・意欲・態度)
- ・現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表にまとめたりすることができる。(資料活用の技能)
- ・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)

《評価の方法》

評価の観点をふまえ、定期考査、小テスト、授業への取り組み方や提出物などから総合的に判断する。

4. 学習アドバイス

- ①地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ②新聞やニュースは地理ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、なぜそうなっているのかを考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
- ③模試は、受けるたびに必ず復習し、提出してもらおう。授業で学んだ知識が本当に活用できるのか、新たな視点や最新の統計を用いた出題にはどのようなものがあるのかなど知ることは大切である。

(担当：関谷 明典)

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	生活文化、 民族・宗教	10	生活文化 民族と宗教	・世界の民族・文化・宗教の地域的な特性について理解する。
5	生活文化、 民族・宗教	10	現代世界の国家 民族・領土問題	・国家の領域や分類について理解する。 ・世界の民族・領土問題について考察し、共生に向けた課題について理解する。
6	現代世界の地域区分 現代世界の諸地域 前期中間考査	10	現代世界の地域区分 東アジア 東南アジア	・地域区分の方法について理解する。 ・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
7 8	現代世界の諸地域	12	南アジア 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ 以南のアフリカ	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
9	現代世界の諸地域 前期期末考査	10	ヨーロッパ ロシア	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
10	現代世界の諸地域	10	アングロアメリカ ラテンアメリカ	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
11	現代世界の諸地域	10	オセアニア	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
12	現代世界と日本 後期中間考査	10	日本	・各国及び地域の地誌的な特色を理解する。
1 2 3		29	発展問題による演習	・発展問題による演習を行い、解法を理解する。

計 111 時間（48 分授業）